

飯田健一先生のご逝去を悼む

佐々木 享

1997年8月1日、飯田賢一先生が亡くなられた。享年70歳であった。

飯田賢一先生は、近代日本の、また鉄の技術の歴史に関する数多くの著作で広く知られた。しかしとりわけ私たち技術教育研究会にとっては、1960年1月15日の創立総会に参加されたお一人で、以来、長くこの運動を指示して下さった先覚者であった。

技術教育研究会創立当時の飯田先生は、日本製鐵の社員であった。(新日本製鐵が成立するのは後のことである。ついでにいうとこの会社の社名は「鉄」ではなく「鐵」の字を使っている。)飯田先生は、若き日に鎌倉アカデミアに学び、そこで三枝博音という類い希な優れた哲学者であり歴史家であった研究者にめぐり逢う機会に恵まれ、以来

孜々として技術史家としての道を歩まれた。先生は、50歳を過ぎて東京工業大学教授に赴任されるまでいわば純然たる民間人として生きて来られたからであろうか、日本科学史学会をはじめ、技術教育研究会のような民間研究団体を非常に大切にされた。

技術教育研究会では、1982年8月3日に、東京で開催した第15回全国大会において、「技術史教育の今日的課題」と題して記念講演をしていただいたこともあった。

8月5日の告別式に飯田先生の恩師故三枝博音先生の喜美子夫人からの弔電が読み上げられたことも、参加者の涙を誘った。

飯田先生、どうぞごゆっくり三枝博音先生と語らって下さい。

常任委員会の動き・事務局だより

第31回全国大会は京都で

節目となる第30回全国大会が若手常任委員たちの精力的な取り組みで成功しました。大会の詳しい報告の続きは本誌の9月号に掲載しますのでご期待下さい。

来年の大会は京都で開催します。第11回と第19回が京都大会でしたので、12年ぶり3回目の開催となります。さっそく、荻野さん、川瀬さん、伊藤さん、沼田さん、丸山さ

んを中心とする京都サークルのみなさんが現地実行委員会結成の準備を始めるといううれしい一報が届きました。常任委員会も現地実行委員会に遅れをとらないように、9月常任委員会で来年度の大会に向けての準備を開始したいと思います。

京都近辺の大阪、兵庫、和歌山のみなさんの現地実行委員会へのご支援をお願いします。